

平成22年度 唐津市立鏡中学校 学校評価総括表

1. 学校教育目標

- (1) 自ら学び考え、正しく判断して行動できる知・徳・体の調和のとれた心豊かな生徒の育成
- (2) 社会の成員としての自覚を持って、きまりを守り健全な社会の建設に努力する生徒の育成

2. 学校経営ビジョン

(望まれる学校像)

美しい環境の、きれいな学校  
真剣に学び合い、実践する学校  
豊かな心で、明るいあいさつに満ちた学校  
支持的風土のある学校  
保護者が参画できる学校

(望まれる生徒像)

心をこめて掃除ができる生徒  
強いからだと粘り強い心を持った生徒  
豊かな知識と正しい判断力を持った生徒  
思いやりの心を持ち助け合う生徒  
夢を語る生徒

(望まれる教師像)

使命感に燃え、お互いに高め合う教師  
研究熱心で、想像力豊かな教師  
生徒と共にあって、実践力のある教師  
夢を語る教師

3. 本年度の重点目標

学力向上の推進  
豊かな心を育てる教育の推進  
特別支援教育のあり方の研究と個別指導による生徒指導の充実  
連携教育の推進

4. 前年度の成果と課題

・重点課題の「学力向上」については、全職員一丸となって校内研究に取り組むことができた。今後、基礎・基本の確実な定着を図り、学力の向上を図るための授業のさらなる工夫・改善を行っていく。また、小中連携を図り、授業における規律づくりにも努めていく。  
・豊かな心を育むため、具体的な取り組みや道徳の授業の質の向上を図るとともに、人権を尊重する教育にも力を入れる。  
・特別支援教育の校内体制のさらなる充実を図る。

5. 総括表

領域	評価項目	評価の観点(具体的評価項目)	具体的目標	具体的方策	評価	成果と課題
学校運営	学校経営方針	・学校教育目標及び学校経営ビジョン、本年度の重点目標の周知	・教職員、生徒、保護者への周知徹底を図る。 ・周知率80%以上にする。	・職員会議、全校集会等で説明をする。 ・学校日より、育友会会議、はなまる連絡帳等を通して周知させる。	A	・職員会議、学校日より等をとおして、教育目標・重点目標等を周知することができた。保護者の92%が「学校は、わかりやすく教育方針等を伝えている」というアンケートの結果であった。今後は目標等の周知徹底に留まらず、具現化を図るための施策等の周知も図っていく必要がある。
	教職員の資質の向上	・教職員の資質・能力の向上	・研究授業を通して、全教員が授業改善に努める。 ・評価・育成システムを充実させる。	・研究授業に計画的かつ積極的に取り組む。 ・教育センター講座、研究発表会等への積極的な参加を勧める。 ・学校評価とリンクさせ、キャリアアップ面談表や自己目標申告書を作成し、勤務意欲に役立てる。	B	・研究授業の積極的な取り組みにはいたらなかったが、教育センターの22の講座及び研究発表会等に意欲的に参加し、資質・能力の向上に努めることができた。今後は、学校評価との関連を図りながら、評価・育成システムのさらなる充実にも努める。
	開かれた学校づくり	・学校からの積極的な情報提供	・公開授業等、学校行事への保護者及び地域住民の参加率を前年度よりも高める。 ・毎月、HP及びはなまる連絡帳の更新並びに学校だよりの発行をする。	・定期的に公開授業を開催し、授業・行事等への保護者・地域の参加の促進を行う。 ・利用状況を把握し、機会あるごとに活用を呼びかける。	A	・保護者の学校行事や授業参観への参加率は前年度より20ポイント増の65.8%であった。9月からは「毎日授業公開日」として位置づけたため、多数の地域の方にも参観をしてもらうことができた。毎月の学校だよりははじめ、定期的にHPやはなまる連絡帳の更新もできた。今後はさらなる保護者の参加ができるような手だてを工夫していく必要がある。
	危機管理体制の整備	・危機管理体制の構築	・教職員の危機管理意識を高めるとともに、生徒の危機回避・安全対応能力を向上させる。	・危機管理マニュアルの見直し及び学習会を行う。 ・年2回避難訓練を実施する。うち1回は不審者対応を行う。全職員が各役割を確実にする。	B	・危機管理マニュアルの見直しをおこなった。また、2回避難訓練を実施し、うち1回は不審者対応の訓練を実施し、不測の事態に備えることができた。今後は、危機管理マニュアルについて、繰り返し学習会を実施し、全職員が確実に役割を認識していく必要がある。
	学校事務	・表簿等の整理	・表簿等の整理を正確に速やかに行う。	・毎月、教頭・事務主査・教務主任で、チェックを確実にこなす。	A	・教頭・事務主査・教務主任の三者でチェックをおこない、ミスのない表簿等の整理に努めた。

教育活動	学力向上	・個に応じた指導，わかる授業に向けた指導方法の改善	・学習意欲を向上させる手立ての研究やわかる授業に向けた指導法改善を目指す，研究授業を実施する。 ・全国（県）学習状況調査における各教科の通過率で前年度を上回る。 ・唐津市基礎学力テストで合格率の上昇を目指す。	・グループ活動（学び合い活動）に共通の視点をおき，研究を進めていく。 ・学年や教科等で分析を進め，対策を練る。テストに対応できるような授業改善を進めていく。 ・合格した生徒に合格証を渡すことで生徒に達成感・成就感を味わわせ，次回への意欲付けとする。	B	・授業づくり部会を中心に，ワークシートや単元テスト及び自己評価表などの工夫を行い，わかる授業を目指した。また，基礎学力テストにおいて，合格証を渡すようにすることで，苦手な生徒にも意識づけができ，達成感を味わわせることができた。1，2年生のほとんどの教科において，向上がみられた。
	心の教育	・道徳の授業の充実  ・互いに尊敬し合える集団づくり  ・生徒会三本柱の達成	・道徳の授業の質の向上を図り，心の響く授業の展開を目指す。  ・相手を思いやることばを使うよう指導する。  ・昨年度同様，掃除の徹底を継続的に行う。	・資料や指導案を検討し，呈示し合う。 ・呈示された資料を全職員に配布する。  ・生徒の8割が時と場合に応じたことば遣いができるようになる。  ・厚生部を中心に掃除を徹底させる活動を定期的に行う。	B	・道徳の授業において，資料や指導案を提供し合い，指導の充実を図った。今後は，一つの資料をもとにいろいろな角度から切り込み，研究を深めていくことで，職員の指導力の向上を目指したい。  ・アンケートの結果「時と場合に応じたことば遣いができる」は8割を満したが，「相手を思いやることばを使う」は約6割であった。自他を尊重する意識を高め，円滑な人間関係を育む必要がある。  ・生徒会厚生部が中心となり，一学期と二学期に美化コンクールを実施した。上位のクラスに表彰をしたり放送で美化活動の呼び掛けたりして掃除に対する意欲を高めさせた。今後は生徒会本部役員を中心に清掃ボランティアにも積極的に参加したい。
	健康・体づくり	・基礎体力の向上	・新体力テストの県平均を上回るように取り組む。	・授業での補強運動やストレッチなど徹底させる。	B	・半数の種目でしか平均を超えることができなかった。種目に粘り強く取り組む姿勢が足りないことが成績低下につながる一因としてあげられる。今後明確な目標を持たせるなど改善していきたい。
	生徒指導	・自己存在感や共感的人間関係を重視した生徒指導 ・生徒の将来に目を向け，社会的に自己実現出来るような援助を中心とした「自己指導能力」の育成	・基本的生活習慣を確立し，維持する。 ・生徒理解の進化と進路指導を推進する。 ・生徒活動の育成と環境整備に努める。 ・家庭や地域と連携を図る。	・規範意識を高められるよう，集会指導や学級，学年指導を充実させる ・教育相談，進路指導の充実 ・学校行事への自主的，実践的態度を育成する。 ・日常的な家庭との連絡，連携，育友会との連携を図る。	B	・2学期より「毎日が授業公開」の取組を実施し，地域・育友会との連携を図ることができ，生徒の生活態度も徐々に向上しつつある。このことを踏まえた方策を継続的に行うことにより，さらに生徒指導の充実を図る必要がある。また，生徒理解の深化とともに教職員との信頼関係を築き，生徒の特性や状況に応じた的確な指導と，不正や反社会的行動に対する毅然とした指導をしていきたい。
特定課題	部活動	・部活動の充実	・生徒の実態に応じた適正な部活動の実施 ・部活動の充実を図り，学校を支えていく生徒の育成を図る。	・時間を守り，休日と活動日のメリハリをつける。 ・目的を持った活動や規則や集団行動の重要性を意識させる。	A	・県大会や九州・全国大会に出場する種目もあるなど，盛んに活動を行うことができた。生徒の学校生活の中での部活動の必要性を再認識し活発に活動できるように，引き続き行っていきたい。
	中1英・数の学習環境の充実（少人数・TT指導）	・1年生におけるTT・少人数指導の充実	・学習状況調査において，数学及び英語の教科について県平均レベルまで引き上げる。	・「わかる，楽しい」授業を目指して教員間の情報交換の場を設定し，少人数・TT指導の研究・実践を行う。 ・課題等のチェックややり直しの徹底を行い，基礎・基本の定着を図る	B	・県学習状況調査では，ほぼ県平均程度であった。・唐津市基礎学力テストにおいては，1回目に比べて2回目合格率の上昇がみられ，1年生においてはすべての教科において合格率が75%を超えた。ワークシートや，自己評価表などを工夫し，指導の研究・実践を行った。
	連携教育	・小中連携を強化し，指導の充実を図る。	・小中9年間を通して生活ルールや学習規律を身に付けさせる。	・小中各1校のため，共通した学習ルールを決め，実践する。 ・授業参観・情報交換会を実施する。	A	・授業参観，情報交換会，小中連携実行委員会等を開き，共通した学習ルールや取り組みを決定することができた。

特別支援教育	・特別支援教育体制の充実	・特別支援担当者会を毎月行い、支援を要する生徒の支援のあり方について検討し、職員の共通理解を深める。	・特別支援コーディネーターとスクールカウンセラーとが連携し、特別支援担当者会や特別支援についての研修会を定期的に行う。 ・支援を要する生徒全員について、個別の教育支援計画を作成する。	B ・時間的に余裕がなく、踏み込んだ話し合いまでには至らなかったが、担当者会を毎週もつことができ、情報交換・情報の共有ができた。また、スクールカウンセラーを講師とした職員研修会や育友会研修会を実施することができた。
職場体験学習	・職場体験の充実	・地域社会との関わりを通して自己の生き方を見つめ直し、よりよい人間関係を作ることができる生徒を育てる。	・活動の見通しを持って、自らの課題を設定させる。 ・体験したことを主体的にまとめ、表現させる。	A ・可能な限り校区内の事業所に協力依頼を行い、地域社会との深い関わりを重視した地域に根差した取り組みを実施した。生徒の希望にそう職種を増やししながら、勤労観や職業観を養うことができた。

は共通評価項目， は独自評価項目

6 総合評価

確かな学力の定着を目指し、校内研究において各部会で取り組むことができた。研修講座や研究授業等の積極的な参加により、教員の資質の向上に努めた。

市基礎学力テスト等、昨年度よりも各学年向上することができた。今後、全国学力学習状況調査や県学習状況調査において、それぞれ全国平均、県平均を上回るよう、学力向上を目指し、授業力・指導力の向上を図る研究をさらに進めていく必要がある。

開かれた学校づくりを目指し、学校便り、HP等を通じ学校の情報の公開に努めた。

生徒指導上の問題等、学校と保護者（育友会）、地域が連携して取り組み、その改善が徐々に見られるようになった。

学習規律や生活規律における小中の共通した取り組みができるよう、計画的に小中の連携を図った。

7 来年度の改善策

学力の向上や生徒指導問題等の諸課題を解決するため、夢の実現に向け主体的に学び行動する生徒の育成を目指したキャリア教育を中心に据えて、人間形成能力や情報活用能力、将来設計能力、意思決定能力の向上を図っていく。そのためのしっかりとした校内体制を構築し、校内研究の充実に一層力を入れていく。

学力の向上を目指し、TTや少数指導などの個に応じたきめ細かな指導や授業研究会等の充実を図る。

豊かな心を育み、人権意識を高めるため、その具体的な取り組みや道徳教育・人権教育の質の向上を図っていく。

生徒指導の充実を図り、組織的に取り組みながら、予防的視点に立った未然防止に力を入れていく。

生徒会の主体的、実践的活動を通じ、生徒間の自浄作用の育成を目指して、その活性化を図る。

地域に根ざした学校として保護者や地域住民の負託に応えられるよう、積極的に情報を発信するとともに、保護者や地域からの反応が得られるような工夫並びに教職員や生徒の地域行事等への積極的な参加など、信頼される学校づくりに努めていく。

小中の連携をさらに進め、義務教育9年間を一つのスパンと考え、中1ギャップの問題を始め、学力向上や生徒指導問題との課題の改善・解決に向けて取り組んでいく。

不登校生徒のゼロをめざすとともに、支援を必要とする生徒への対応など、地域や保護者との連携を図りながら、職員の体制づくりを確立し、研修会の充実を図る。